

# ふるさと研究ニュース

2010年3月 第9号

所沢市生涯学習推進センター  
ふるさと研究担当



「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

## 天体観望会 「冬の星空を見てみよう！」

2月23日(火) 18時～19時30分

夏の企画展「星と所沢のものがたり」の関連講座として開催した、8月26日(伝統的七夕の日)観望会では、曇り空のため観望ができず、参加者の皆さんや私たちにとって心残りの多い講座となってしまいました。

半年が経ち、季節は冬。再び(株)ビクセンにご協力をいただき、天体観望会を開催しました。当日は小学校1年生から70代の方まで、40名以上の市民の皆さんが、冬の星空を楽しみました。

観望前には、「今日の星空」と「2010年に見たい星空」として、地球に接近し見頃の火星の動きや2010年に見られる月食、太陽系の主な惑星が一度に見られる機会(7月14日と8月13日)、ペルセウス座流星群(8月12日)とふたご座流星群(12月14日)の極大などについての講話がありました。観望会では、3台の望遠鏡を使い、月・火星・プレアデス星団(すばる)・オリオン星雲などを見ることができました。

星空は皆さんの近くにいつもあります。2010年、帰りで夜空を見上げるなど、星空を身近に感じる年にしてみませんか？



観望会で見た月(2010年2月23日)

画像提供: (株)ビクセン

【講師】国立天文台 天文情報センター 小野智子さん

【協力】株式会社 ビクセン 都築泰久さん・加島信次さん・島田敏弘さん

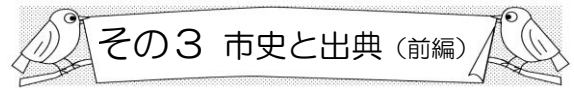
### 3月にご覧いただける展示など

場 所	内 容
常設展示室	所沢の歴史・まゆの七変化・自然など
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」
南棟3階階段脇掲示板 ミニ写真展	富岡地区の移り変わり 柳瀬地区の移り変わり 3月12日(金)まで 3月13日(土)から
3階中央棟廊下壁 今月の航空写真	早稲田大学所沢校地 3月31日(水)まで

所沢市生涯学習推進センター ふるさと研究担当

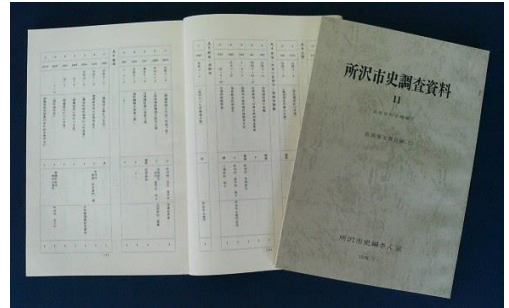
Tel:04-2991-0308 Fax:04-2991-0309 Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp

## 閲覧学習室を利用してみませんか？



以前このコーナーで『所沢市史』についてご紹介しましたが（第4号）、今回は一歩進んだ使い方についてご紹介します。

『所沢市史』を刊行するための様々な調査の中で、もっとも大きな比重を占めているのは市内外の文書の調査です。旧家や関係の団体が所蔵する文書を調査し、どのような内容のものがあるか1点1点リストにします（このリストを「文書目録」と呼んでいます）。そして内容を精査し、情報を積み重ねてはじめて市史の記述が生まれます。市史の記述を追っていると、文末の（ ）の中に出典が挙げられているのに気付くでしょう。こうした出典は、『明治元年里正日誌』上）のように資料の名前がそのまま書いてある場合もありますが、（近代史料Ⅰ-2）や（岩岡隆家 上 J2-10）のように書かれている場合があります。前者の場合、『所沢市史』14冊のうちの「近代史料Ⅰ」に史料番号2として活字化されていることを示し、後者の場合、文書目録を参照することで文書の内容がわかります。岩岡隆家（上）の目録は「所沢市史調査資料11」に収録されており、「J2-10」という文書番号から探すと、慶応4年に作られた「官軍発向中山道蕨宿助郷諸式入用帳」という内容であることがわかります。閲覧学習室では、この文書の内容を実際に確かめることもできますので次回ご紹介します。ちなみに今回例に挙げた文書は、『所沢市史』下の第1章第1節「戊辰戦争と所沢」の執筆に用いられたものです。



閲覧学習室の利用にあたっては、職員が常駐していないため、3階企画展示室か4階研究室（事務室）の職員までお申し出下さい。事前にお電話などで開室の時間を予約することもできます。

## 『ああ両中尉』のレコード



ふるさと研究市民トピック vol. 9

今から97年前の大正2年（1913）3月28日、所沢飛行場を飛び立ったブレリオ単葉機は、青山練兵場での飛行披露を終え、帰還直前で突風に煽られ、松井村柿ノ木台（現所沢聖地霊園駐車場南側付近）に墜落しました。搭乗していた木村鈴四郎中尉、徳田金一中尉はこのとき墜落死し、これがわが国初の航空犠牲者となった事故として、日本航空史上に刻まれています。事故は当時の新聞にも大きく取り上げられ、両中尉の死を多くの人びとが悼みました。

事故を追悼して翌年記念碑が建てられたことはよく知られていますが、同じ頃、浪花節による『噫（ああ）両中尉』というレコード（SP盤）が発売されていました。レコード

は、エンジェル・レコード（ANGEL RECORD）が発売したもので、片面4枚組となっています。また、同時に楽譜も販売されました。曲は当時薩摩琵琶歌を多く手がけていた飯田胡春（いいだ こしゅん 1883-1937）が作曲し、浪曲師として名高かった東家楽燕（あずまや らくえん 1887-1950）が演奏しています。

浪花節は、当時のレコードの売り上げではトップのジャンルであり、そうした中で、木村・徳田両中尉の悲劇もテーマとして取り上げられたのではないのでしょうか。

実はこのレコードと楽譜、存在は知られていますが、まだ発見されていません。SP盤や楽譜をお持ちの方、あるいは何か情報をお持ちの方、是非お知らせください。